

IT人材開発フォーラム

第8回「可能性を広げるキャリアの創り方」

議事録

日時：平成22年8月27日 18時30分～21時00分

場所：東京都品川区大井町「きゅりあん」

プログラム

1. 開会
2. あいさつ 座長 石井真司
3. テーマ
「可能性を広げるキャリアの創り方」
4. 質疑応答
5. 次回の連絡
6. 閉会

The logo for OICOS, featuring the word "OICOS" in a bold, sans-serif font. A small red square is positioned above the letter "I".

■ フォーラムダイジェスト

◆本セミナーへの想い

これまでのキャリアを見つめ直し、自己の再発見や今後の新たな可能性に出会うきっかけにしてほしいとの想いを込めた。

◆参加者の自己紹介

グループごとの自己紹介タイムで、現在の仕事やマイブーム・はまっていることについて話した。自分が興味を持って取り組んでいることは、キャリアに関連がある。

一般的な自己紹介に続いて、現在の職業以外での“ウソの自己紹介”を実施。

「実は私は・・・です。この仕事の楽しいところは・・・です。」

「漁師」「俳優」「高校生」をはじめ、様々な職業が挙がり、終始楽しい雰囲気にも包まれた。ここでのポイントは、職業そのものではなく、この仕事の楽しいところである。これは「純粹意欲」(他人から期待されていることではなく、その人が本来仕事に対して望んでいること)と言われている。自ら言葉にした3種類の職業とキーワードが、現在自分が取り組んでいることに当てはまったという声が聞かれた。

◆キャリアとは

今回のテーマである「キャリア」の語源は、「車の轍(わだち)」、馬車が通った後にできる車輪の跡と言われている。仕事を中心とした人生の中で、自らの活動によって創られる軌跡であり、過去だけでなく、これからどこへ向かいたいのかという将来の展望でもある。キャリアとは、過去、現在、未来と連続性のあるもの。また、報酬が伴わない活動も、その人を形作るキャリアと考える。

◆外的キャリアと内的キャリア

キャリアには、職歴や職種、役職、給料といった他人からも見える「外的キャリア」と、自分だけが知っているやりがいや興味、価値観といった「内的キャリア」がある。

氷山にたとえると、水面から上の部分が外的キャリア、水面下の見えない部分が内的キャリアと言える。外的キャリアだけでなく、内的キャリアを考えることで自分の基盤が強固となり、人生をより充実させることにつながっていく。

◆ キャリアを考えるための3要素

キャリアを考えるための要素として、「興味(やりたいこと・Want)」「能力(できること・Can)」「価値観(大事なこと・Value)」の3つがある。この3つが満たされている時、キャリアの満足度が高いと言われている。興味があっても、できることであっても、自分にとって大事なこと(例:家族を大事にする)が満たされないと、全体の満足度が下がってしまう可能性がある。

◆キャリアの選択事例

講師が関わったケースで、上述の3要素を元にした自己分析を行い、新たなキャリアを選択した事例2つを紹介した。

事例 1:システムコンサルティング会社勤務の T さん(29 歳男性)は、本当にやりたい仕事を見つけるため、自己分析を実施。T さんは人材の育成に興味があり、コーチングを学び、スキルアップを図っていた。人材育成会社へ転職することを決め、数社に応募した末、人材育成コンサルティング会社に内定、現在も活躍中。

事例 2:化学メーカー研究員の A さん(30 歳男性)は、このまま現在の仕事を続けるかどうか、将来のキャリアについて悩んでいた。前述の3要素をベースに自己分析を行ったところ、複数の選択肢が挙がってきた。そのうち、会計が好きであり、専門知識を活かして人の役に立ちたいという思いが強かったため、公認会計士として働く道を目指すことになった。専門学校へ 2 年間通った後、公認会計士資格を取得。その後、監査法人への転職が決まり、将来は公認会計士として独立して働きたいという夢に一步近づいた。

◆「ソース」の考え方

キャリアの考え方の一つとして、「ソース」を紹介。「ソース(Source)」とは、人が夢中になって何かに取り組んでいる時、その源にあるもの。「生きる意欲の源」「自分を動かす原動力」「ワクワクの源泉」と言われる。ワクワクとは、「自分の中に自然にわき起こる好奇心」であり、「満ち足りた人生を送るための大切な要素」である。

参考『ソース～あなたの人生の源はワクワクすることにある。』

マイク マクマナス(著)、ヒューイ 陽子(翻訳)、VOICE

◆演習 1～これまでのキャリア

内的キャリアを明確にするプロセスの一つとして、これまでのキャリアを振り返り、自分にとって大事なこと(価値観)を探る演習を行った。人生を満足度という視点から振り返り、人生の中で満足度が高い部分(山)と低い部分(谷)についてペアインタビューを通じて掘り下げていった。山に共通する傾向、谷から山に登るきっかけから抽出したキーワードは、価値観に通じると言える。

◆演習 2～現在のキャリア

現在の職場での存在意義、自分が職場に与えている影響についての問いを考えてもらった。

「あなたが存在することで、現場にもたらされているものは何でしょうか？」参加者からは、「笑い」「ゆるい空気」「バランス感覚」「安心感」などが挙がり、自分の役割や他の人に与えている影響を認識する時間となった。

◆演習 3～これからのキャリア

最後に、今後どのようなキャリアを歩んでいきたいかについての問いを考えてもらった。

自分の人生の終わりの日、大切な友人にどのように自分のことを話してもらいたいか(=自分への弔辞)を考えてもらった。人生の最後をイメージすることで、今後どのように生きたいか、どのようにありたいかが見えてくる。

◆まとめ

この 2 時間を通じての感想では、様々な切り口から内的キャリアを考えることで、自分についての発見があったという声が挙がった。

石井さんより、「キャリアには内的キャリアと外的キャリアの2つがあるという考え方が印象に残った」というコメントをいただいた。

話題提供者より：今回ご紹介した内的キャリアを明確にするプロセスが、今後の新たな可能性を発見するきっかけになれば幸いです。

以上